



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



巻頭言 歯学教育者ワークショップ開催される

歯学教育学部門 片岡 竜太



第20回昭和大学歯学教育者のためのワークショップが、8月6日(木)、7日(金)に神奈川県葉山町IPC生産性国際交流センターで開催されました。医学部、薬学部のアドバンスドと同時開催で、参加者は4大学交流校、学事部などを含めて63名(歯学部18名)、タスクは20名(歯学部7名)でした。

歯学部では、「試験問題成績統合管理システムの活用 - 試験問題の質の向上と学生への指導 -」「チーム医療に参加できる歯科医師を養成するための臨床実習 - 医科病院、地域における実習 -」という2つの喫緊の課題に取り組みました。

試験問題を一括して管理できる「試験問題成績統合管理システム」を2011年度より2年から5年生までの進級試験、翌年から卒業試験に導入しました。これにより進級や卒業を決める重要な試験問題を歯学部として管理し、ブラッシュアップし、問題をプールすることができるようになりました。科目間の出題範囲の調整をすることもでき、試験問題の質は向上しました。また試験毎に学生にレーダーチャートを配り学生や指導教員は学生の苦手な部分や得意な部分が一目でわかりやすくなりました。今回のWSでは試験後に出題者に正答率、識別係数などの情報をフィードバックし、講義や実習などの内容とリンクした良質な試験問題になるように各講座の教授が中心となって講座内でブラッシュアップし、学生の弱点が明確になったら、その克服のために e-ラーニング教材を活用することを参加者グループが提案しました。

医系総合大学の歯学部という特徴を活かして、本学では「チーム医療に貢献できる歯科医師」の育成に努めていますが、その中でも特に5年生の医科病院歯科における臨床実習と地域連携在宅チーム医療実習は急性期と回復期・維持期の医療における歯科の役割を理解し、患者中心のチーム医療を実践す

る上で重要なテーマです。全身疾患と口腔の状態と相互の関連を把握した上で、口腔の治療ケアプランを提案し、多職種と連携して患者さんの治療に関わる3週間にわたる「チーム医療臨床実習」案を参加者グループが作成しました。この実習には病院歯科における実習と歯科医師会の協力のもとで実施する地域連携在宅歯科医療実習が含まれ、いずれも歯科病院では実施が難しい実習です。

4学部では「2年次以降の在宅チーム医療教育カリキュラムの作成」、医学部は「72週の臨床実習と診療参加型実習のカリキュラム」と「国家試験合格率100%を目指して」、薬学部は「昭和大学の特色を活かしたクリニカルワークショップの実施に向けて」「昭和大学のコンピテンシーを実現する薬局実習のあり方について」について取り組み、いずれも来年度のカリキュラムに早速取り入れることができる完成度が高いプロダクトが提案されました。

東京大学医学教育国際協力センター 大西弘高先生には「コンピテンシ、コンピテンシー」というタイトルで、今までドメイン(領域)と呼んでいたものが「コンピテンシ」、それを細分化して評価が可能なものをコンピテンシーと呼ぶということ、EPA(Entrustable Professional Activity)は独り立ちができるレベルでこれがコンピテンシーを達成したことを意味することをわかりやすく話していただきました。

学部を超えた活発な討議の後、学事部も含め90名以上が参加する合同の懇親会が開催されました。今回のワークショップを通じて学習者を中心としたコンピテンシーという考え方が昭和大学に根付き、チーム医療に貢献できる医療者を養成する日本一の大学になったことを実感しました。最後に運営を支えていただいた学事部の皆様に感謝します。



認定医・専門医取得

広報委員長 中村 雅典

- ・日本歯科放射線学会 歯科放射線認定医:
黒田 沙, 橋本絵美, 藤倉満美子
平成27年5月8日付
- ・日本歯科麻酔学会 歯科麻酔専門医:
菊池睦美, 片岡華恵 平成27年7月1日付

歯学教育者ワークショップに参加して

北海道医療大学 総合教育学系

臨床教育管理運営 長澤 敏行

平成27年度の歯学教育者ワークショップに参加させていただきました。今回のワークショップは昭和大学の次年度のカリキュラムを泊まり込みで教員が作成するというもので、他大学では類を見ない事業であると思います。歯学部で検討されたテーマは「試験問題成績統合管理システムの活用-試験問題の質の向上と学生の指導-」と「チーム医療に参加できる歯科医師を養成するための臨床実習～医科病院、地域における実習～」で、いずれの大学でも頭を悩ませる喫緊の課題でした。



私はチーム医療のグループに参加させていただきましたが、昭和大の先生は皆とても熱心で、和やかな雰囲気の中でかなり厳しい討論が交わされていました。何より驚いたのは若い先生がみな自らの業務負担が重くなることを厭わず、臨床実習を充実させる方略を考えていたことで、昭和大学の未来の明るさを感じました。1日目終了してから2日目の朝までの深夜に書類を作成してきた先生もいらっやっして、働きすぎなのではと余計なことながら心配になりました。このような先生の下で学ぶ昭和大学の学生さんは恵まれていると思います。2日間にわたり良い刺激になりました。関係各位の先生に深く感謝いたします。有難うございました。

昭和大学教育者のためのワークショップ(ビギナーコース)に参加しました

歯科薬理学講座 根岸貴子



第7回昭和大学教育者のためのワークショップに参加しました。富士吉田教育部、医・歯・薬・保健医療学部からの教職員が参加され、4月から昭和大学に赴任してきたばかりの私にはほとんどが初対面の方々と、熱いディスカッションや夜の懇親会を経験しました。

教育とは何か、といった根本テーマの熟考に始まり、昭和大学“らしい”(理念に沿った)カリキュラム構築の実践に至るまで、机上では得られない教育者とし

ての在り方を学びました。私が参加したワークグループは、1年生を対象としたチーム医療入門のカリキュラム作成がテーマでした。当ワークグループでは、私のように、これまで医療や教育への実質的な関わりが多くなかった教員も含み、ワークグループそのものが他職種間のコミュニケーションに立脚することを必須とした活動となりました。3日の連続した時間、密着して討議した結果、グループの統一見解として一つのカリキュラムを”生み出す”ことができたと感じています。これはまさに、チーム医療ならず、チーム教育の戦略であり、本学”らしい”“教育者の育成現場だったのだな、と思いました。教育とは”価値ある変化をもたらすこと“であり、私達教育者の上にそれがもたらされた3日間でした。教育者を教育してくださったタスクの先生方、事務方の皆様のご尽力にお礼申し上げます。

昭和大学教育者のためのワークショップ(アドバンスコース)に参加しました

歯科放射線医学部門 荒木 和之

8月6日～7日にIPC生産性国際交流センターで開催された昭和大学教育者のためのワークショップに参加し



ました。全学部合同のワークショップで、医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部、富士吉田教育部から多くの方が参加されました。歯学部では、昭和大学病院をはじめ各病院歯科の先生方、学外では北海道医療大学、岩手医科大学、日本歯科大学、福岡歯科大学からも参加いただきました。7つのテーマごとに、小グループに分かれて討議しプロダクトを作成しました。私はグループ④「試験問題成績統合管理システムの活用～試験問題の質の向上と学生への指導～」に参加しました。進級試験や卒業試験の問題作成をより良くするにはどうしたらいいか、また結果を学生さんにうまくフィードバックするにはどうしたらいいかを検討しました。初日は10時～18時、2日目は8時30分～15時まで会場に缶詰状態での討議でした。下界は暑かったようですが空調もよく保たれていて快適に過ごせ、他大学の現状も聞くことができ、とても有意義な時間でした。初日の夜には懇親会があり、「素晴らしい体内時計をお持ちで賞」もいただき楽しいひとときを過ごせました。

受賞

広報委員長 中村 雅典

・第89回国際麻酔研究会議 Best of Category Award 賞「Behavior of Endothelial Glycocalyx Layer during Sepsis in Mice as Observed using Fluorescence in vivo Microscopy」片岡 華恵(歯科麻酔科学部門)

昭和大学教育者のためのワークショップ (アドバンスコース)に参加しました

口腔解剖学講座 中島 功

平成27年8月6、7日の両日、神奈川県葉山町のIPC生産性国際交流センターにおいて昭和大学歯学教育者のためのワークショップが開催されました。



このワークショップには歯学部19人、医学部18人、薬学部20人、保健医療学部3人、富士吉田教育部2人、看護専門学校1人が参加しました(タスクは除く)。歯学部からの参加者は4学部混成グループ1班と歯学部のみグループ2班(第20回昭和大学歯学部のためのワークショップ)に分かれて行われました。混成グループのテーマは「2年次以降の在宅チーム医療の作成」、歯学部のみグループは「試験問題成績統合管理システムの活用～試験問題の質の向上と学生への指導～」、「チーム医療に参加できる歯科医師を養成するための臨床実習～医科病院、地域における実習～」というテーマについて取り組みました。1日目の全体発表の後に、東京大学医学教育国際センターの大西弘高先生よりカリキュラム作成のための「コンピテンズ・コンピテンシー」というテーマで、コンピテンズとコンピテンシーの違いや海外のアウトカム基盤型教育の例を挙げた講演が行われました。2日目は1日目のプロダクトをさらに進め、より具体的なプロダクトを完成させることができました。

昭和大学歯科病院臨床研修歯科医 採用試験が実施されました。

総合診療歯科学部門 長谷川篤司

平成28年度歯科病院臨床研修歯科医の採用試験が7月18日(土)に旗の台校舎4号館と5号館で実施されました。

受験者は、厳しい暑さにもかかわらず、きりっとしたスーツ姿で参集し、試験課題である学識試験と面接試験に臨みました。

本学の研修プログラムは、研修医が自ら臨床での診療を実践することを念頭に、1つの診療部署で長期間(6か月または12か月)じっくりと研修できるように計画されています。さらに、重要な3つの短期必修コース(患者全身状態を把握、理解するための全身管理



研修、医科病院での周術期口腔管理や地域包括ケアを実践できるための口腔ケア研修、一般的なX線撮影の習熟と画像診断能力向上のための画像診断研修)をラウンドするプログラムが追加されています。

募集定員はプログラムA(院内6か月+学外6か月)40名、プログラムB(院内2診療科で6か月ずつ)30名、プログラムC(院内1診療科で12か月)20名、プログラムD(院内6か月+学内病院歯科6か月)10名となっており、本年は22大学から202名(新卒153名、既卒49名)が受験し、このうち本学出身者は127名(新卒100名、既卒27名)でした。

教職員を対象としたITを活用した模擬 授業を行いました

歯学教育学部門 片岡 竜太

平成24年度から文科省大学間連携共同教育推進事業で、超高齢社会に対応できる歯科医師を養成するために、岩手医科大学と北海道医療大学および関連する9歯科医師会と連携して、3大学で同じIT教材を活用して、3年生、4年生、5年生を対象にIT(e-ラーニング、VP、電子ポートフォリオ)を活用した授業を実施しています。



7月22日(水)17時30分から教職員を対象に歯科病院6階第2臨床講堂で模擬授業を行い約30名が参加しました。以下の3項目を目的としました。1)「超高齢社会に対応できる歯科医師を養成」する教育プログラムの概要を知る。2)ITを活用したアクティブラーニングを体験する。3)e-ラーニングを活用した授業を実施する基本的な技能を身につける。

参加者はPCを持参して美島教授の模擬授業を受けてもらい、最後に金沢電子出版の佐藤社長の指導の下、簡単なe-ラーニング教材を作成してもらいました。現在各ユニットにはe-ラーニングコースが設置されており、ここに授業のポイントを問う「プレテスト」「ポストテスト」を登録し、授業で活用しています。これにより学生は授業のポイントが分かりやすくなり、教員は授業を通して学生がどの程度理解したかが分かりやすくなります。e-ラーニング教材を作成ことは大変に感じますが、参加者は意外に簡単にできることに驚いていました。ITを活用して、学生にも教員にも効果率が良い双方型の授業が増えることを期待します。

行事予定

広報委員長 中村 雅典

- ・9月19日(土): 歯学部入試説明会
- ・9月24日(土): 大学院秋季修了式
- ・9月26日(土): 富士吉田父兄会

歯学部オープンキャンパスが実施されました

総合診療歯科学部門 長谷川篤司

歯科病院における第2回オープンキャンパスが8月15日(土)に開催されました。

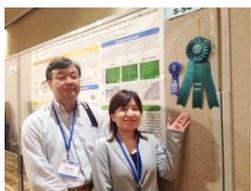


第1回オープンキャンパス(7月25日)の来場者62組106名をはるかに超える107組220名が来場され、当日の炎天下で受付開始30分以上前から待っていた家族もあり、先着40名で募集した体験実習は受付開始15分で定員となりました。熱気に包まれた6階第1, 第2臨床講堂では、宮崎学部長の開会のごあいさつに続いて、堀川教授が富士吉田での学生生活、特に4学部合同での特色ある教育プログラムや楽しく充実した寮生活について説明しました。さらに井上(富)教授が平成28年度歯学部入学試験の概要に加え、学力試験、小論文、面接試験の傾向と対策についても解説した際には、皆、真剣に聞き入り、メモを取る場面も見られました。

この後、10組20名程度のグループに分かれて病院内ツアーを行い、4階では歯周病科が、2階では口腔外科が各外来診療の特色などを紹介し、地下1階スキルスラボでは高齢者歯科が患者ロボット「フィジコ」を用いた実習を紹介するのをラウンドで見学しました。一方、体験実習ではシミュレーターマネキンの口腔内の人工歯う蝕修復窩洞に臨床実習さながらにレジン充填し、可視光線によるレンジ重合を体験しました。実習成果は当日肉眼で確認しただけでなく、本学電子ポートフォリオシステムを利用して、帰宅後に自分の成果をダウンロードして拡大像として確認できるように企画しました。今回の反響は未集計ですが、第1回オープンキャンパスではポートフォリオシステムを通して好評の返信が多数寄せられました。

第89回国際麻酔学研究会議で Best of Category Award を受賞しました

歯科麻酔科学部門 大学院4年 片岡華恵



3月21—24日に、国際麻酔学研究会議(IARS)年次大会が、米国、ホノルルで開催され、演題「Behavior of Endothelial Glycocalyx Layer during Sepsis in Mice as Observed using

Fluorescence in vivo Microscopy」が Best of Category Award を受賞いたしました。さらに Kosaka Award の最終選考に選出して頂きました。

この学会は、全世界からおよそ1,000人が集まる

ことで知られています。本年はJSCAとIARSのコラボレーション25周年、Kosaka Award 20周年でしたので参加者も多く、最新の知見に関して活発な議論がされておりました。また演題数も750以上と多く、その演題の中から Best of Category Award では14演題が受賞いたしました。本年度の日本からの受賞は1演題でしたので大変光栄でした。また、Kosaka Award は750演題中6演題が最終選考となり、初めての国際学会の発表で、大学院生でありながら海外の著名な先生方の前で口頭発表させて頂くという貴重な経験をさせて頂き、大変嬉しく思いました。今後もこの気持ちを忘れずに麻酔学に寄与できるよう精進して参ります。

これまで熱心に指導して下さいました国立保健医療科学院の牛山明先生、歯科麻酔科学の飯島毅彦教授をはじめ、多くの先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

藤島昭宏先生を偲ぶ

歯科理工学部門 宮崎 隆

歯科保存学講座歯科理工学部門講師の藤島昭宏先生が、7月30日早朝に57歳の生涯を閉じられました。藤島先生は持病をいくつか抱えていたようですが、前日まで普段と変わらない様子で仕事をしており、私を含めて何人かの先生がたとメールで研究打合せをしていました。突然の悲報に接し、関係者一同深い悲しみに覆われています。



藤島先生は本学の1回生であり、卒業後、当時の宮治教授の下で研究生を経て大学院に進学し、歯科材料の力学的耐久性の評価に関する研究に従事しました。大学院修了後は歯科理工学教室の助手、講師として長年、歯科理工学の教育と研究にご活躍されました。この間、米国ポートランドのオレゴン健康大学に客員准教授として留学し、歯科用コンポジットレジンに関する新しい評価法を開発し、ライフワークとなりました。

大学では歯科理工学の講義や実習だけでなく、教育委員会や治験委員会等の委員会活動、学生の指導担任やD6チューターを通じて学生指導に尽力されました。専門の日本歯科理工学会では評議員を務め、編集委員会ほか多くの委員会で活躍してきました。息を引き取る直前まで実験装置のことを気にされていたと奥様から伺っています。まだまだやり残したことが多く、さぞかし無念であったと思いますが、安らかにお眠りください。合掌。

編集後記 歯科放射線医学部門 松田 幸子

この新聞を影で支えてくださっているすべての方々、ご寄稿いただいている皆様に感謝申し上げます。